

ちいさな騎士^{きし}

エリザベス=ジョンソン・さく



まつの まさこ・やく

ロニ=ソルバート・え

N D C 九 三 三

新しい世界の幼年童話・18

ちいさな騎士

エリザベスII ジョンソン

訳者★松野正子

発行人★渡部ひろし

編集人★石井和夫

印刷★進光印刷有限公司

発行所★株式会社学習研究社

東京都大田区上池台四の四〇の五

振替東京八一四二九三〇

落丁本・乱丁本はおとりかえいたします

© 1 9 6 9

5 1 2 7

*この本の内容に関する問合わせ、製本上のミスなどがありましたら、下記あてにお願いします。
文書は(〒145)東京都大田区上池台4-40-5 学研 ユーザー・サービス部「児童図書」係
電話は、東京(03)720-1111(大代表)

ちいさな騎士

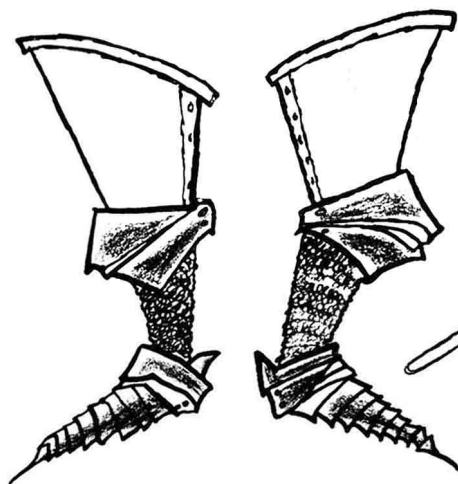


ちいさな騎士

エリザベス=ジョンソン・さく

まつの まさこ・やく

ロニ=ソルバート・え



THE LITTLE KNIGHT

Copyright © 1957 by Elizabeth Johnson
Original English edition published
by Little, Brown & Company, Boston

Japanese translation right arranged
through Charles E. Tuttle Co., Inc., Tokyo



さまのぎょうれつがとおります。ラッパがなりひびき、はたが風にかぜひるがえっています。

せんとうは、おそろいの青いふくをきた、王さまつきのラッパ手たち。きちんとならんで、さっさと、おしろの前庭へとはいっていきます。

つづいて、足音たかく、きいろいふくの、王さまつきのごえい兵たち。

ごえい兵たちのやりが、あかるいたいように、きらりきらりとひかります。

そのつぎに、金と銀でできた王さまの馬車。六とうの黒馬が、はねるよ

うに、げんきいっぱいでひいていきます。馬車の中では、王さまとおきさ

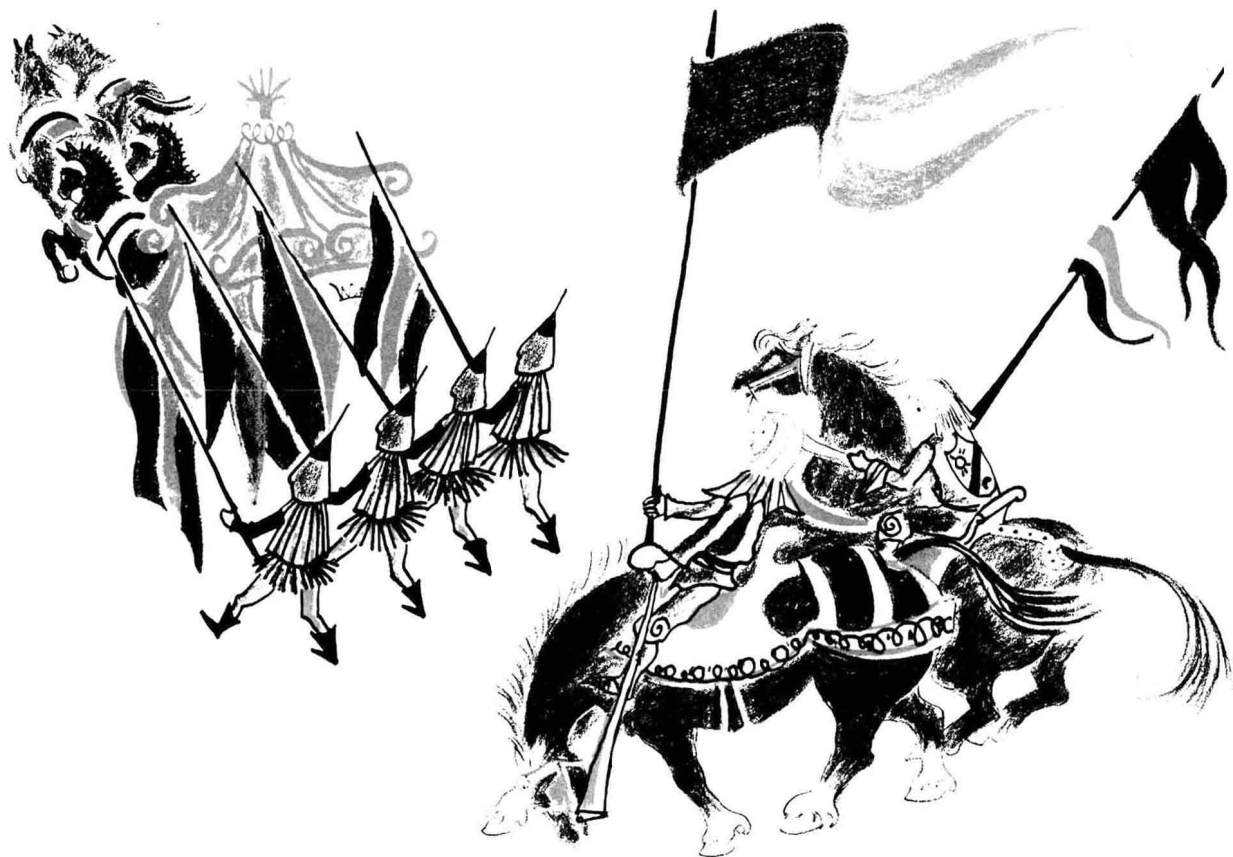
きさまが、にこにこわらって、みちのりようがわにあつまっている、けん

ぶつの人たちに手をふっていらっしやいます。左に右に、右に左に。

王さまの馬車のあとから、つやつやした毛なみの黒馬にのって、ふたり

の王子さまたち。





そして、そのうしろが、まっ
しろい二にとうの馬うまがひく、ちい
さな金きんと銀ぎんの馬車ばしゃです。

のっているのは、レオノーラ・

グリセルダ・フロール・ド・リス

姫ひめと、うばのハンナ。レオノー

ラ姫ひめは、とてもとてもきれいで、

——そして、とてもとても、こ

わいかおをしています。

「につこりなさいませ、お姫ひめさ

ま。」と、うばのハンナがいいま

した。

ハンナは、お姫さまが、ほんのちいさなところから、ずっと、お姫さまのせわをしてきました。いまも、こわいかおをして、じっとすわっているお姫さまのかわりに、けんぶつの人たちに、あいさつをしていきます。左に右に、右に左に。

「いやよ。」レオノーラ姫は、左も右もみないで、ぎゅっと歯をくいしばったままでいました。こういうふうにしてはなせば、なにをいつているのか、馬車のそとにいる人には、わからないからです。

「きれい、きれい。こんなの、だいっきらい。あたし、おにいさまたちみたいに、馬にのっていきたい。女の子なんて、ちっとも、おもしろいことさせてもらえないのね。あたしだって、おにいさまたちみたいに、馬にのれるわ。——たぶん、もつとじょうずにのれるわ。」

ちようどそのとき、王さまの馬車がおしろのげんかんとまりました。

うしろにつづくぎょうれつもとまり、レオノーラ姫の馬車は、前のはんぶんはおしろの門の中に、うしろのはんぶんは門のそとにでたまま、とまりました。

とまった馬車の中で、お姫さまは、ますます、こわいかおをしています。馬車をのぞきこんで、けんぶつの人たちがいいました。

「ああ、なんてきれいなんだろう……。けど、まあ、どうだい、あの、つうんとしていることしたら。」

「王さまも、ごくろうなことだわい。こんなお姫さまをけっこうさせるのはたいへんだ。ぷんぷんおこりんぼの、かんしゃくもちだよ。」

「こんなお姫さまをおよめさんにする王子さまは、きのどくなことさ！
これをきいて、ハンナがたのみました。

「たったいちどでいいから、にっこりわらってくださいな……」

「いやよ。」レオノーラ姫ひめがそういつて、あたまを、ぐいっとそらしたとたん、馬車ばしやがうごきだしました。はずみで、お姫ひめさまは、どさんとたおれ、そのうえ、なんともくやしいことに、あたまのかんむりが、よこっちょにずれてしまいました。

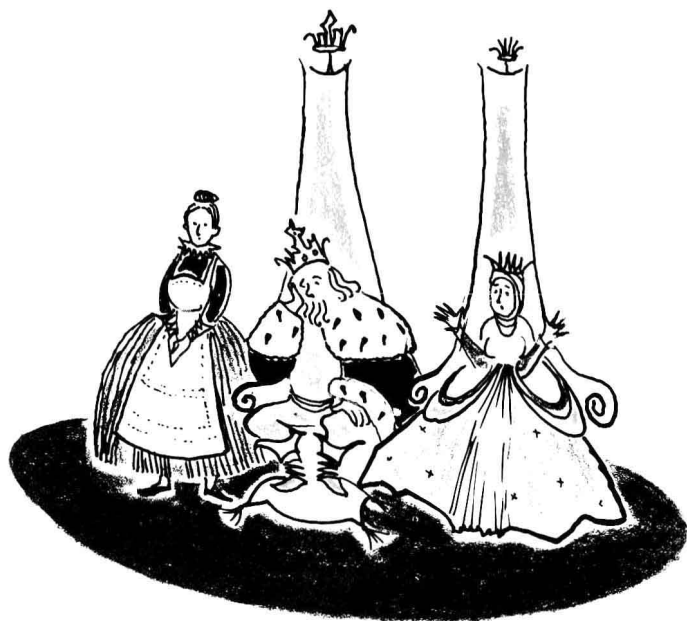
「ほーら、ごらんないませ……」ハンナは、ためいきをつきました。

「貴婦人きふじんらしく、おぎょうぎよく、おしとやかにしてくださいさえしたら……。あなたは、お姫ひめさまなのですよ。」

「ふーんだ。あたしは騎士きしになるの。馬うまにのってたたかう、いさましい騎士きしよ。貴婦人きふじんらしい、おしとやかなお姫ひめさまなんて、きらいっ！」

馬車ばしやがげんかんにつきました。レオノーラ姫ひめは、さっとたちあがると、ながい、うつくしいふくのすそをつかんで、馬車ばしやからとびおりました。そして、大きな声こえでうたいながら、おしろへかけこみました。





貴婦人^{きふじん}なんか、だいきらいイ！

ししゅうなんて、だいきらいイ

あたしは騎士^{きし}よ、いさましい騎士^{きし}

あたしは、あたしのゆめをおうウ

「やれやれ！」 王^{おう}さまと、おきさき

さまと、うばのハンナは、ためいきを
つきました。

「またやってるな。」 ふたりのおにい
さまは、わらいました。

「あのやんちゃむすめは、なんとかせ
にやならんな。」と、王^{おう}さまがいました

た。

「そろそろ、けっこうんさせねばなあ。しかし、よっぽどつよくて、よっぽどいさましいわかもでなくちゃあ、あれは手におえんぞ。なあ、きさきよ——」　こういって、王さまは、おきさきさまのほうをむかれました。

「おふれをだしたほうがよさそうじゃ。レオノーラ・グリセルダ・フロール・ド・リス姫は、この、うつくしく（それは、ほんとう。たしかに、うつくしいお姫さまですよね）かわいらしい（ま、ときどきは、かわいいこともあります）　わかき姫ぎみにふさわしく、つよくていさましいことをしようめいできる王子と、けっこうするであろう、とな。それから、その王子は、わが王国の三分の一を、じぶんのものにできるのだ。」

どうだ。これなら、だれだって、レオノーラをおよめさんにしたがるぞ。きょうみをもたないものは、まずあるまい。たとえ、まあ、たとえ——、

レオノーラが、ぶんぶんおこりんぼの、かんしゃくもちだっ
てことを耳^{みみ}にしたにしてもじゃ。」

「へえええーだ。」と、そこへ、レオノーラ姫^{ひめ}の、おこった声^{こえ}。「そんなの、あたしは、ぜんぜん、きょうみないわ。」

みんながふりむくと、へやの入り口^{ぐち}に、レオノーラ姫^{ひめ}がたっていました。
目^めをきらきらさせて、両手^{りょうて}をこしにあて、どしんどしんと、足^{あし}をふみなら
しています。こうすると、じぶんのいうことが、よけいつよくきこえると
いうわけです。

「あたしにまけないほどいさましい王子^{おうじ}さまなんて、いるものですか。ど
うして、あたし、そんな……、そんな、だれかれかまわず、どっかのだれ
かさんのおよめさんになんか、ならなきゃならないの?」

「だれかれかまわず、どっかのだれ
かさん、ではない。」と、王さまがい
いました。「ちゃんとした王子だ。
りっぱな騎士だ。テストをしよう。
三つのテストにとおった王子と、け
っこんするのだ。」

「どんなテスト？」 足のせ台に、
どさんとすわって、レオノーラ姫が
きました。「まず、あたしが、や
ってみるわ。」

「ええと——」 おおいそぎでかん
がえながら、王さまがいました。

